

平成27年度豊岡小学校経営方針（案）

学校教育目標

「させられる自分」から「する自分」へ
～肯定的なかかわりの中で～

「する自分」を創り出すとは、児童の学習意欲、生活意欲を対象とした教育活動である。そのためには、「意思」を鍛え「欲求」を刺激することが重要である。そして、子どもたちがなりたい自分をめざし、真の「学びの主人公」となるために、全ての教育活動の基盤に、子どもの声を聴く、ほめる、広げる、をキーワードとした「肯定的なかかわり」を据え、全職員で豊岡小学校の教育文化を創造していく。

指導の柱と重点目標

実践キーワード：「聴く」「ほめる」「広げる」

柱	よりよく生きるための「情」の力	納得して自ら学ぶ「知」の力	健康と安全をつくる「体」の力
目標	<ul style="list-style-type: none">■「忍耐力」「自尊感情」「自分を律する心」「自分たちで解決しようとする力」など豊かな心の育成■基本的な生活技能の徹底	<ul style="list-style-type: none">■基礎的・基本的な知識・技能の定着■思考力・判断力・表現力を育むための言語活動の質の向上	<ul style="list-style-type: none">■基礎体力（調整力・柔軟性）の育成■運動意欲と習慣の育成■基本的な生活習慣の確立に向けた取組
■聴くことを核とした支持的風土のある学級・学年・学校づくりをすすめる			

学校経営の充実を図るために

- (1) 全学年で副担任制を実施し、「チームで育てる」を合言葉に、教育実践の「交流」と「共有」による学び合いを通して教師自らによる同僚性を構築し、協働体制を充実させる。
- (2) 学習指導の充実を図るため、低・中学年においては「TT」による指導、高学年においては「教科担任制（豊小方式）」の指導を実施するとともに、「どのように学んだか（思考・方法）」を重視した「活用型の学習活動」の工夫改善を図る。
- (3) 「言語活動の充実を図る」「知的活動を増進する」「人格形成や情操を養う」観点から、環境づくり、教科指導、特別活動の様々な視点において読書活動の一層の推進を図る。
- (4) 人間関係能力を育成するため、異年齢による縦割り活動や対話を重視した活動を充実させる。
- (5) いじめや不登校などの課題解決に向け、子どもの声を聴くことを教育活動の基軸に据えるとともに、心理テスト、生活アンケート、相談週間を通して、児童理解を深める。
- (6) 人権への配慮が行き届いた学習環境、言語環境を整え、一人一人が大切にされる学校文化を築くとともに、居心地のよい学級・学年・学校づくりをめざす。
- (7) 地域と連携しながら、学校内外において「あおだ・・・明るく、大きな、誰にでも」挨拶のできる子どもを育成する。
- (8) 基本的な生活習慣や学習習慣、読書習慣の確立を図るため、学校・家庭の連携を密にする。
- (9) 学校行事、オープンスクール、学校評議員会、各ボランティアの活用等の取組を通して保護者や地域の声を聞き「開かれた学校」づくりを進める。
- (10) 児童が自らの生命を守るのに必要な能力や態度を育成するために防災教育を充実させる。
- (11) 防犯ボランティアの協力による登下校時のパトロールや学校における不審者対応等、学校内外における子どもの安全を守るための継続した取組を進める。